

建築教育委員会 活動概況 (2013～2014年度)

委員長:2013～2014年度 石川 孝重

傘下の小委員会・WG一覧:2014年度

- 直属WG
 - ――建築教育シンポジウムWG 主査 阿部 浩和 (大阪大学)
 - ――工業高校建築教育WG 主査 田中 和夫 (東京都立田無工業高等学校)
 - ――進路調査WG 主査 長澤 夏子 (早稲田大学)
- 建築教育基本構想小委員会
 - ――都市計画WG 主査 元岡 展久 (お茶の水女子大学)
 - ――構造教育検討WG 主査 小林 正美 (明治大学)
 - ――環境設備教育WG 主査 岡田 章 (日本大学)
 - ――建築計画系WG 主査 須永 修通 (首都大学東京)
 - ――材料施工教育検討WG 主査 伊藤 俊介 (東京電機大学)
- 建築教育将来計画小委員会
 - ――建築マネジメント教育WG 主査 田村 雅紀 (工学院大学)
 - ――市民協働のデザインWG 主査 平田 京子 (日本女子大学)
 - ――住教育WG 主査 浦江 真人 (東洋大学)
 - ――BIM教育調査WG 主査 伊藤 香織 (東京理科大学)
 - ――アウトリーチWG 主査 妹尾 理子 (香川大学)
 - ――教育の社会性検討WG 主査 衣袋 洋一 (芝浦工業大学)
 - ――フィールドワーク・スタディ・カリキュラムWG 主査 三輪 律江 (横浜市立大学)
 - 主査 富樫 豊 (NPO地域における知識の結い)

2013年度大会

建築教育部門

／研究協議会

「建てない時代の 建築教育」

- コミュニティデザインのための職能と教育
西村浩(建築家 / ワークヴィジョンズ代表)
 - 改修・リノベーションのための職能と教育
青木茂(首都大学東京特任教授 / 株式会社青木茂建築工房主宰)
 - 不動産マネジメントと建築教育
林厚見(株式会社スピーク / 東京R 不動産)
- 2013年8月30日

多くの参加者があり、盛況であった



建てない時代の建築教育 2013年8月30日

2013年8月30日 金曜日
日本建築学会 北海道大会
建築教育部門 研究協議会
13:30pm - 17:00pm
北海道大学
高等教育推進機構 (N1)
資料販売あり

もはや建築を次々と新築する時代ではなくなった。今後は、既存建築ストックを有効に維持管理し、改修、保存、再利用していくことがますます重要となってくる。一方でこうした社会の変化に、建築教育は対応できていない。建築士受験資格によって職能が保証された建築カリキュラムは、日本独自のホリスティックで優れた建築カリキュラムであるともいえるが、それは都市を開発し、公共建築を建設し、住宅を次々と新築していくという成長期の建築教育をそのまま継いでいるにすぎない。

学生は、新築の公共施設にかよった設計課題をいくらかこなしても、就職先の業務においてそうしたプロジェクトに関われることは稀である。巨大プロジェクトが舞い降りない未来像にリアリティがなくなってきたことは、多くの学生にとって建築設計への魅力の減少となり、ひいては建築設計へ進む学生が少なくなってきた。一方、まちづくりや既存建築の改修のニーズが増えている。とはいえ、まちづくりや改修といった視点からの建築教育については、いまだ模索状態といえる。

今後、新築の建築物を建てる機会がますます少なくなっていく時代に建築を学んだ学生は、新築を建てる以外の新しい職能の分野を切り開き、役割が求められている。新築が建てられなくなる時代に、建築の専門家にはなにか求められるのか。本シンポジウムでは、まちづくりや保存改修、プロパティマネジメントにかかわる実務者からの提言を交え、高度成長と新築を前提とした建築教育を再考し、現在の社会ニーズから、建築教育に求められるもの、「建てない時代の建築教育」を検討した。

建築教育フォーラム

第13回建築教育シンポジウム

(建築会館)



- 2013年11月30日開催
- 教育研究論文、各WGの活動報告
- 招待講演「建築教育と多様性」
- チームけんちく体操
- 大西正紀先生(編集者/mosaki)
- 田中元子先生(ライター/mosaki)

第13回建築教育シンポジウム

『建築教育の多様性—けんちく体操—』

(一社)日本建築学会 建築教育委員会 主催

日時：2013(平成25)年11月30日(土) 10:00~16:00

会場：建築会館 3F会議室(港区芝5-25-20)

建築教育委員会は、これまで広く建築教育に関して協議・研究・調査・発表・実践などを行い、建築教育の向上に寄与することを目的に様々な活動を実施してきました。本委員会で建築専門教育、住環境教育、市民教育、並びに教育制度、教育手法など広く建築教育に関する研究、報告を募集し「建築教育シンポジウム」を開催します。

近年では、これまでの建築教育に加えて、建築家・実務者による私塾がいくつも設立されていたり、文化庁による「国立近現代建築資料館」の創設によって、広く一般に建築の教育普及が図られているほか、BIXの普及によって、企業では従来の実務教育だけでなく情報リテラシーを含む新たな建築教育の必要性が生じているなど、建築の教育普及活動の範囲がますますの広がりをみせています。そこで今回は「建築教育の多様性」をテーマとして、今年度「けんちく体操ワークショップ」を中心とした建築教育プログラムの実践と普及活動で建築学会賞(教育)を受賞されたチームけんちく体操の大西正紀氏、田中元子氏をお招きし、建築教育活動の状況とこれからの展開を議論する機会としたいと思います。

第1部 小委員会・WGの活動報告 10:00~12:00

第2部 招待講演 13:00~14:15

『建築教育と多様性』

チームけんちく体操

大西正紀先生(編集者/mosaki)

田中元子先生(ライター/mosaki)

第3部 教育研究発表 14:30~16:00

教育研究論文発表

教育事例報告

『大学教育』：大学における建築教育、設計教育、住環境教育、教育制度など

『建築教育一般』：実務教育、市民教育、こども教育、体験型授業など

招待講演者のご紹介

大西正紀 (編集者/mosaki)

1977年、大阪府生まれ
2001年、日本大学理工学部建築学科卒業
2003年、日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
2003-2004年、Utsida Fundlay Architects (現)勤務
2004年、mosaki 共同設立
2004-2007年、日本大学理工学部建築学科助手
2010年、「けんちく体操」2号 編集

田中元子 (ライター/mosaki)

1976年、東京都生まれ
2000年、同朋会青山アール・トメント再生プロジェクト100-発表
2004年、mosaki 共同設立
2007-2008年、co-116 クリエイティブアシスタント
2010年、「けんちく体操」1号 編集

定員 50名(申込順、定数超過可)
参加費：前席1,000円 後席500円 学生500円(資料代含む)
申し込み方法

申し込みまたはFAXで申し込みを、氏名、所属、TEL、FAX、E-mailアドレスを明記し下記までお申込みください。
東京同研究建築グループ：原田 hasada@tcg.or.jp TEL: 03-3438-2057 FAX: 03-3438-2058

2014年度大会

建築教育部門／研究懇談会

「大学・企業における BIM への取り組みと教育の現状」

BIM に取り組んできている大学 および企業等から、現状に至るまでの取り組み過程、成果および社内教育について発表、大学建築教育全般および建築設計教育への要望等を中心に討論がなされた。BIM 教育調査 WG で取り組んだ企業の BIM 現状・BIM 教育等へのアンケート調査の概略を発表した。

- (1) BIM の現状と社内教育 その 1
- (2) BIM の現状と社内教育 その 2
- (3) BIM の現状と社内教育 その 3
- (4) BIM 教育の現状 綱川隆司(前田建設) 福士正洋(大林組) 村松弘治(安井建築設計事務所) 衣袋洋一(前掲)
- (5) BIM 社内教育等のアンケート調査概略 澤田英行(前掲)

建築教育フォーラム

第14回建築教育シンポジウム

(建築会館)



- 2014年11月29日開催
- 教育研究論文、各WGの活動報告
- 招待講演 「まちを生かす36のモノづくりコトづくり」
- 伊藤香織先生(東京理科大学)

第14回建築教育シンポジウム

『まち建築：まちを生かす36のモノづくりコトづくり』

(一社)日本建築学会 建築教育委員会 主催
日時：2014(平成26)年11月29日(土) 11:00~16:40
会場：建築会館 3F会議室(港区芝5-26-20)

建築教育委員会は、これまで広く建築教育に関して協議・研究・調査・発表・議論などを行い、建築教育の向上に寄与することを目的に様々な活動を実施してきました。本委員会では建築専門教育、住環境教育、市民教育、並びに教育制度、教育手法など広く建築教育に関する研究、報告を募集し「建築教育シンポジウム」を開催します。

建築にかかわる専門家は「つくる」行為だけでなく、維持管理や解体など、建築物をめぐるさまざまな場面で建築の働きを再構築し、まちに新たな価値を創造することが期待されています。建築教育委員会の市民協働のデザインWGでは、こうした建築行為を「まち建築」とし、国内外の36の実践例を選定して『まち建築——まちを生かす36のモノづくりコトづくり』(日本建築学会編)として刊行いたしました。今回はその執筆者のひとりである伊藤香織先生をお招きして、モノづくりコトづくりを通して、まちに新たな価値を創造するための様々な取組みをご紹介いただき、建築教育が担う役割を検討する。

第1部 小委員会・WGの活動報告 11:00~12:00

第2部 招待講演 13:00~14:00

『まちを生かす36のモノづくりコトづくり』

伊藤香織先生(東京理科大学)

単行本：183ページ
出版社：彰国社(2014/04)
著者：日本建築学会(建築教育委員会)
ISBN-10：4398320104
ISBN-11：978-4398320103
発売日：2014/04

第3部 教育研究発表 14:00~16:40

教育研究論文発表
教育事例報告

『大学教育』：大学における建築教育、設計教育、教育制度など
『建築教育一般』：実務教育、市民こども教育、体験型授業など

定員：50名(申込額、当日参加可)
参加費：会員1,000円 会員外2,000円 学生500円(資料代含む)
申し込み方法
E-mail または FAX で申し込み名称、氏名、所属、TEL、FAX、E-mail アドレスを明記し下記までお申込みください。
事務局研究事業グループ： 浜田 hanada@aij.or.jp TEL: 03-3456-2057 FAX: 03-3456-2058

工業高校建築教育WG

2年間の主な活動:

①建築教育に関する調査研究

「建築系学科を設置する高校における進路に関するアンケート調査」を実施

→2014年に実施した「第45回 工業高校建築教育研修会」ならびに

「第14回 建築教育シンポジウム」で概要を報告の上、論文を投稿

②全国の高等学校教員を対象とした研修の実施

主に高等学校で、建築教育を担当している教員を対象とした研修を実施(写真)

今後予定している主な活動:

①新学習指導要領を踏まえ、示された「**評価の観点**」
＝「**関心・意欲・態度**」「**思考・判断・表現**」「**技能**」及び
「**知識・理解**」に基づく「**確かな学力**」を育むための、
高等学校建築教育の研究・提案

②他校種との連携を視野に入れたカリキュラムの検討

③調査結果の報告・発表



材料施工教育検討WG

関東支部 材料施工専門研究委員会・人材サステイン検討WGと連携

主な活動内容(2013～2014)

- 1)材料施工教育の役割と人材育成に関するアンケート調査
- 2)材料施工教育カリキュラム・モデル(大学, 企業)
- 3)材料施工に関わる素材マップの作成
- 4)材料実験を通じた体験的理解のための実験事例紹介
- 5)材料施工の人材サステインの評価(専門資格の指標化)
- 6)材料施工のプロフェッショナル講演(退官教員など)
- 7)材料施工に関わる共同現場調査および技術研修



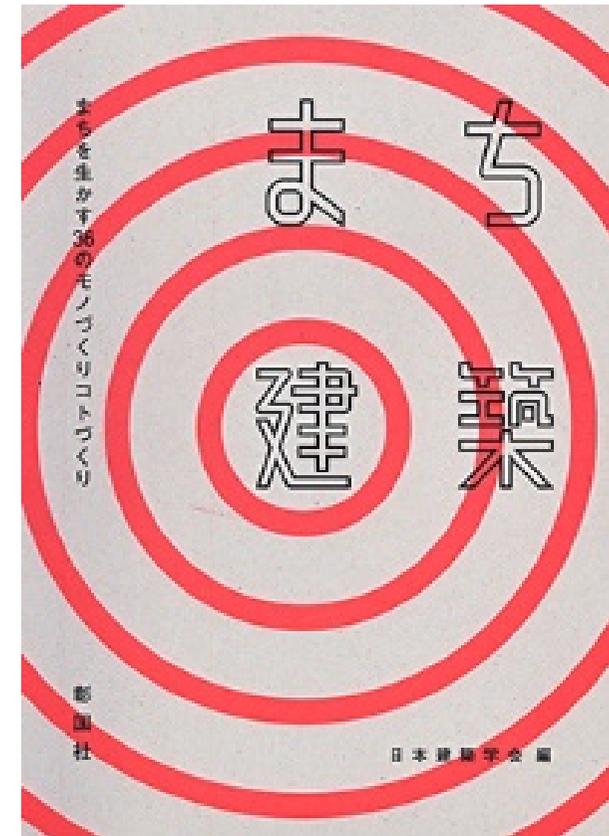
鉄筋
圧接研修



市民協働のデザインWG 研究成果書籍出版・出版記念シンポ まち建築会議 2014.5.23

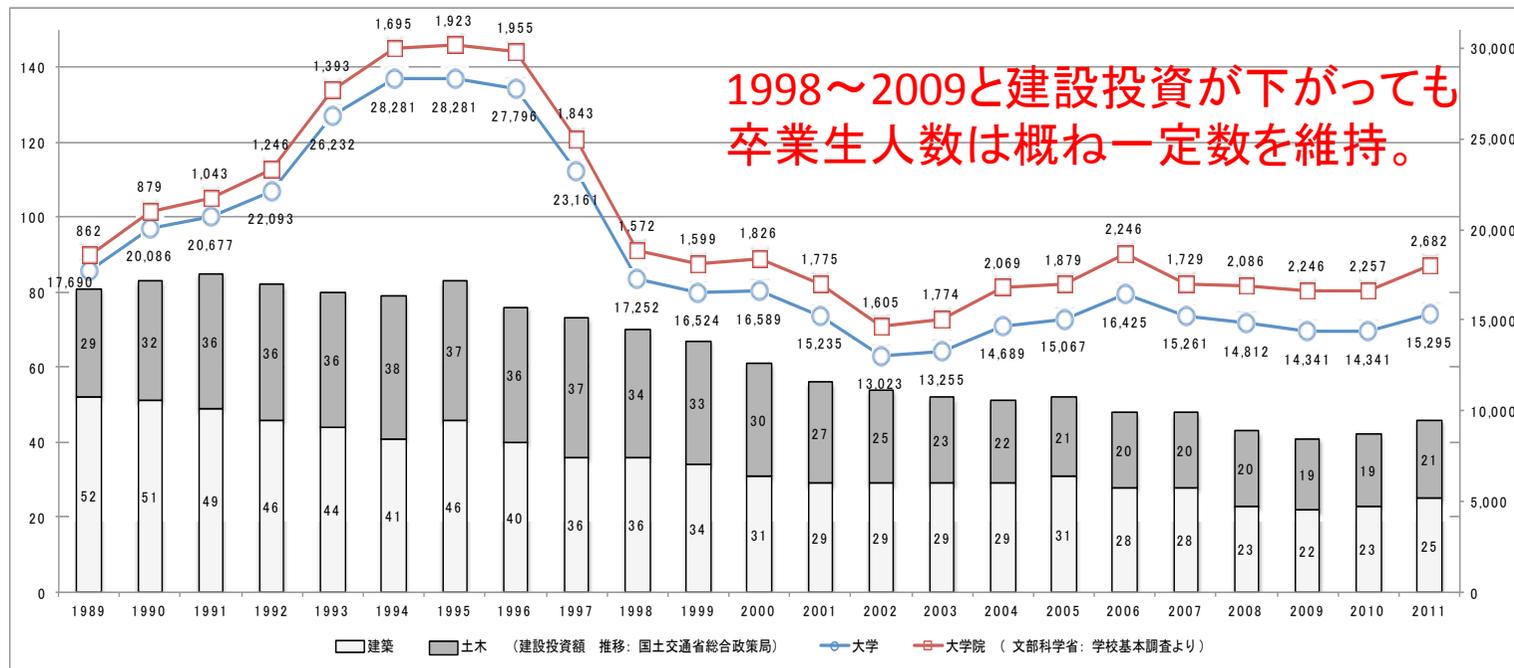
@3331 Arts Chiyoda

まち建築——まちを生かす 36 のモノづくりコトづくり
(日本建築学会編)



進路調査WG

2003年より継続して「全国建築系大学・大学院卒業生の進路調査」を行なってきた。社会動向にあった建築教育のありかたを探る目的である。



日本建築学会技術報告集にて発表

「建築系大学卒業生の進路調査の経年分析」 Vol.20, No.44, pp.393-398

進路調査WG

9年分のデータの分析

- ・「建築とその関連業種」が85%
- ・経年での変動は景気の影響を受ける
- ・男女別、最終進路の別、教育の系の別で業種割合が異なることが明らかに。

課題：

新築よりもリフォームなどの業種や職種が増えている実態は、定量的にはわからなかったが、企業HP調査から業務分野の変化からはその一端が伺えた。

